# 令　和　２　年　度　学　年　末　学　校　評　価　表　愛南町立城辺中学校

| 重点目標 | | 評価指標及び目標値 | | 評価 | 学校による考察<◇>及び改善策等<◆> | 評価資料 | | 到達率［肯定評価(A､B)の割合］ | アンケート結果（人数）A | B | C | D | ? |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 生徒指導の徹底と健全育成 | 生徒理解の充実 | 生徒理解に努め、子どもの課題に積極的に対応している。<br>目標値：アンケート結果80%以上達成 | 学年末 | A | ◇毎週行っている生徒指導部会において、生徒の生活情報を共有しながら、組織的に対応することを心掛けてきた。そのことが、問題が大きくなる前に解決している要因であると考えられる。また、定期の教育相談やチャンス相談、毎月実施している学校生活アンケートから、生徒の抱える不安や悩みに寄り添いながら対応をしていることが、高い評価につながっていると考えられる。<br>◆保護者、生徒においてＣ・Ｄ評価が若干数いることを踏まえ、人間関係等で悩みを抱える生徒に気付く感度を高め、生徒に寄り添い迅速に対応することを、今後も継続して取り組んでいく。 | 教職員 | 1 | 100% | 8 | 16 | 0 | 0 | 0 |
| | | | | | | 保護者 | 1 | 84% | 22 | 70 | 16 | 1 | 0 |
| | | | | | | 生　徒 | 1 | 91% | 78 | 61 | 11 | 2 | 0 |
| | | 規範意識を身に付け、けじめのある生徒を育てている。<br>目標値：アンケート結果80%以上肯定 | 学年末 | A | ◇全体的に落ち着いた雰囲気で学校生活を過ごしている。全校一斉教育相談や毎月実施する生活のアンケートからも、楽しく伸び伸びと学校生活を送っていることが分かる。また、行事等を通して、集団の中での自己の在り方も考えることができるようになっていることが高い評価につながっていると考えられる。<br>◆語先後礼は浸透しているが、保護者からは地域での挨拶が少し弱くなってきたという評価がある。学校外でのけじめについても触れる機会を設けていく。<br>◆生徒が安心して過ごせる雰囲気を保つために、引き続き、教職員全員で生徒を見守る体制を維持していく。<br>◆学年や学級、部活動など、様々な集団の中で生徒の自浄力や自治力を、更に高める指導を継続していく。 | 教職員 | 2 | 92% | 3 | 19 | 2 | 0 | 0 |
| | | | | | | 保護者 | 2 | 87% | 21 | 74 | 13 | 1 | 0 |
| | | | | | | 地域住民 | 1 | 100% | 11 | 21 | 0 | 0 | 3 |
| | | | | | | 生　徒 | 2 | 94% | 86 | 57 | 8 | 1 | 0 |
| | 温かい集団づくり | いじめのない、認め合い、支え合う集団づくりができている。<br>目標値：アンケート結果80%以上肯定 | 学年末 | A | ◇各行事の縦割り活動の中で、仲間を尊重したり、認め合ったりするなど、生徒間同士が支え合う成長が見られた。また、学級でも協力して活動し、目標を持ってより良い集団づくりを進めることができた。<br>◇道徳科の授業を中心に全教育活動において、相手や周囲のことを考え、善悪の判断ができ、自分の考えを持って行動する集団づくりに努めている。<br>◇ライン等のＳＮＳの利用について、各家庭でルールを定めているが、使い方や時間などについてルーズな生徒がいる。<br>◆学校生活に望ましくない言動が見られた場合には、集団の秩序を維持するために指導することを心掛ける。また、ＳＮＳ等の目に見えづらい部分のいじめの早期発見に努めるため、家庭との連携を図り、見守り体制をより一層強化していく。 | 教職員 | 3 | 79% | 1 | 18 | 5 | 0 | 0 |
| | | | | | | 教職員 | 4 | 92% | 6 | 16 | 2 | 0 | 0 |
| | | | | | | 保護者 | 3 | 81% | 13 | 74 | 19 | 2 | 1 |
| | | | | | | 保護者 | 4 | 87% | 43 | 52 | 12 | 2 | 0 |
| | | | | | | 生　徒 | 3 | 95% | 103 | 42 | 6 | 1 | 0 |
| | | | | | | 生　徒 | 4 | 91% | 92 | 46 | 10 | 4 | 0 |
| | 人権・同和教育の推進 | 学校生活を通し、人権意識の高い生徒を育てている。<br>目標値：アンケート結果80%以上肯定 | 学年末 | B | ◇今年度は、全国的に新型コロナウイルス感染症に対する差別事象が発生している。自他の人権侵害を考えるよい機会であったが、校内研修や委員会等で取り組みが甘かった。このことが教職員の低い評価につながっていると考えられる。今後は機会を設けて研修等を実施し、教職員と生徒に人権の意識の高揚を図っていきたい。<br>◆人権強調月間を１学期にしか設けていない。日頃からの活動はもちろんであるが、世界的な人権週間の12月に強調月間を設けたり、「いじめ防止強調月間」とした全校での活動を取り入れたりするなど、人権意識の高揚を図る活動の取組を増やしていくことを考えている。<br>◆心の通じ合うコミュニケーション能力を培う授業等を実践し、これまで行ってきた、きめ細かな配慮をした規範意識の育成と教科指導を根気よく継続していく。また、スクールカウンセラー等による定期的な教育相談や講演会を行い、いじめの起きない環境づくりをしていく。 | 教職員 | 5 | 71% | 3 | 14 | 7 | 0 | 0 |
| | | | | | | 保護者 | 5 | 87% | 16 | 79 | 14 | 0 | 0 |
| | | | | | | 地域住民 | 3 | 96% | 5 | 18 | 1 | 0 | 11 |
| | | | | | | 生　徒 | 5 | 96% | 87 | 87 | 6 | 2 | 0 |
| | 特別支援教育の推進 | 障がいのある生徒に対して、学校全体で支援している。<br>目標値：アンケート結果80%以上肯定 | 学年末 | A | ◇教職員、生徒ともに高評価を得ている。交流学級の学級担任による生徒同士のつながりをつくる働き掛けが大きく影響したと思われる。<br>◇学校行事の中で、お互いのことを知る機会があり、理解が深まったことが高評価につながったと思われる。<br>◆支援の必要な生徒への具体的な支援の方法について、チーム体制で考える機会を増やしていく。<br>◆地域アンケートでは「？」に付けている人数が多かったため、学校で実践していることについて、学校通信やホームページを活用して知らせる機会を増やしていく。 | 教職員 | 6 | 92% | 7 | 15 | 2 | 0 | 0 |
| | | | | | | 保護者 | 6 | 92% | 33 | 65 | 8 | 1 | 2 |
| | | | | | | 地域住民 | 4 | 100% | 6 | 15 | 0 | 0 | 14 |
| | | | | | | 生　徒 | 6 | 94% | 91 | 50 | 8 | 1 | 2 |

A：よくあてはまる
B：あてはまる
C：あまりあてはまらない
D：まったくあてはまらない
？‥判定できない

| | | | |
|---|---|---|---|
| **学校運営協議会委員の所見** | ・今年度は全国的にコロナウイルス感染症予防対策のため、全てが例年とは異なり、指導や取り組み方の工夫等、模索されながらの日々で大変苦労されたのではないか。<br>・学校は生徒指導上の問題に十分対応しており、非行などの大きな問題は発生していない。生徒指導部会が機能しているのだと考える。<br>・生徒や保護者の意見の中に、生徒と先生の信頼関係、きちんと話を聞いてもらいたい、信じてもらいたいと訴えている声が気になる。<br>・温かい集団づくりや人権・同和教育の推進の結果の中に、CやD評価があることが気になる。思いやりのない生徒がいるのではないだろうか。適切な対応や学習を進めてほしい。<br>・人権教育においては、コロナ禍での差別問題、シトラスリボンプロジェクトなど、考えることのできるよい機会ではないか。 | **学校の対応** | ・週に一回（毎週火曜日）生徒指導部会を行い、生徒について共通理解を図っている。また、月に一回、学校生活アンケートを実施している。今後も全職員が確実に共通理解を図り、指導の徹底ができる環境を整えていく。<br>・結果にも現れているように、生徒理解については不十分であると感じている。もう一度アンテナを張り巡らせ、生徒をしっかりと見守っていきたい。また、教職員の指導の対応が変わらないように気を付けたい。<br>・今年度の人権教育は不十分であったと反省している。強調月間や道徳科の授業はもちろんであるが、普段の生徒の言動などにも気を付けながら指導していきたい。 |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 確かな学力の定着と向上 | 指導方法の改善・充実 | 個に応じた指導を工夫し、分かる授業の充実に努めている。<br><br>目標値：アンケート結果80%以上肯定 | 学年末 | A | ◇教職員は授業改善の視点を大切にして実践研究を積み重ねており、多くの生徒が「授業での教え方に工夫をしてくれている」と感じている。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症予防のため学習形態等に制限があり、学び合い・深め合うことが難しかった。<br>◇家庭で90分以上学習している生徒の割合が低く、家庭学習習慣を身に付けることが今後の課題である。<br><br>◆生徒が分かりやすい授業を実践し、より個に応じたきめ細かな配慮をした教科指導を継続していく。また、家庭学習習慣が確立できるような宿題の与え方、自主学習の方法を工夫し生徒に提示する。 | 教職員 | 7 | 96% | 7 | 16 | 1 | 0 | 0 |
| | | | | | | 教職員 | 11 | 91% | 5 | 16 | 2 | 0 | 1 |
| | | | | | | 保護者 | 7 | 79% | 15 | 69 | 19 | 3 | 3 |
| | | | | | | 保護者 | 11 | 82% | 22 | 66 | 17 | 2 | 2 |
| | | | | | | 生　徒 | 7 | 91% | 74 | 64 | 10 | 4 | 0 |
| | 基礎・基本の定着 | 基礎的・基本的な学習内容の定着を図っている。<br><br>目標値：アンケート結果80%以上肯定・小テストや単元テストの各教科平均70点以上 | 学年末 | B | ◇授業は分かりやすいと感じている生徒が多い。しかし、理解した学習内容の定着に関しては、自信が持てていない状況がアンケート結果から読み取れる。各教科の授業で振り返りの時間を設け、基礎的・基本的な学習内容の定着が図れるよう努めているが、個々の定着度には差がある。<br><br>◆継続して授業内容を振り返る機会を設けていくとともに、個々の理解度を確認して適切な支援を加えるようにする。また、生徒自身が自らの学習状況を把握し、向上に努めようとする学習習慣を確立できるよう、家庭での学習方法を提示する。 | 教職員 | 8 | 100% | 10 | 14 | 0 | 0 | 0 |
| | | | | | | 保護者 | 8 | 70% | 16 | 60 | 27 | 5 | 1 |
| | | | | | | 生　徒 | 9 | 73% | 50 | 61 | 37 | 4 | 0 |
| | 思考力・表現力の育成 | 自ら考え、主体的に表現しようとする生徒を育てている。<br><br>目標値：アンケート結果80%以上肯定 | 学年末 | B | ◇教職員は思考力・表現力を育成する授業展開に努めているが、生徒・保護者との数値の差からすると、その成果はまだ浸透しているとは言い難い。<br><br>◆朝読書や「コラムを読もう」などの継続した指導を行うとともに、自分の考えを自分の言葉で語ることができるように働き掛ける。授業だけではなく、集会等のいろいろな場面で主体的に思考・表現する場面を増やし、日常的に表現力の向上を図る。 | 教職員 | 9 | 96% | 4 | 19 | 1 | 0 | 0 |
| | | | | | | 保護者 | 9 | 68% | 17 | 56 | 31 | 3 | 2 |
| | | | | | | 生　徒 | 10 | 74% | 46 | 67 | 30 | 9 | 0 |
| | 家庭学習の習慣化 | 生徒に家庭学習の習慣が身に付いている。<br><br>目標値：庭学習時間毎日90分以上（塾での時間も含む）達成80%以上 | 学年末 | C | ◇いずれの調査対象においても評価が低い。個々の学力に応じた自主学習ノートの活用や休業中の課題内容の精査、補充学習への取組等、課題に対するアプローチは行っているものの、学習への意識に差があり、家庭学習の習慣化には至っていない。<br><br>◆今年度は、日々の自主学習の内容を検討し、５教科を中心としたプリント学習から各自の興味・関心に応じた自主学習ノートへの取組に切り替えた。テスト前の学習や個々のレベルに応じた学習には一定の効果は得られたものの、普段からの習慣化にはまだ課題が残る。今後は家庭での学習時間の確保だけでなく、より個に応じた学習内容の工夫を考慮しながら、より効果的な手立てを考えていく必要がある。 | 教職員 | 10 | 58% | 0 | 14 | 10 | 0 | 0 |
| | | | | | | 保護者 | 10 | 57% | 17 | 45 | 32 | 14 | 1 |
| | | | | | | 生　徒 | 11 | 68% | 46 | 58 | 30 | 18 | 0 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| **学校運営協議会委員の所見** | ・授業に遅れがちな生徒への支援をしっかりしてもらいたい。<br>・生徒の学習意欲が低いのではないか。学習意欲を高めるための指導の工夫が必要である。<br>・今も昔も家庭での学習ができていないことは変わっていない。これができれば「自分で考え実行する」いわゆる「自立」につながっていくのだと考える。<br>・何のために勉強や宿題をするのかを、教員・生徒・保護者で話せる機会があるとよいのではないか。<br>・家庭学習の習慣化のためには、生徒の意識も当然だが保護者の意識も重要である。今後も様々な手立てを考えながら指導を行ってほしい。<br>・今後はデジタル配信も考えていく必要があるのではないか。 | **学校の対応** | ・学習の進め方についての指導が必要であると感じている。今年度はコロナ禍の影響で学校のスタートが遅れたため、きめ細かな指導ができていない。宿題の出し方（※教科によって偏りがない等）や自主学習ノート（チャレンジノート）の活用の仕方など、もう一度検討し、個に応じた指導につながる工夫をしていきたい。<br>・スマホやゲーム、SNS等、家庭では生徒にとって居心地のよい環境が整っている。家庭の協力も得なければ学習に集中させることは難しいと考える。家庭でのルールづくり等、呼び掛けを継続していく。<br>・来年度からGIGAスクールが始まり、これまで以上にICTの活用場面が多くなることが予想される。教職員もICT活用のスキルを高めるための研修に励みたい。 |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 特色ある学校づくりの推進 | 愛さつ城辺の推進 | あいさつがよくできる生徒を育てている。<br>目標値：アンケート結果 80%以上肯定 | 学年末 | A | ◇目標値に達しているためAとした。毎週水曜日に行われる生徒会の「あいさつ運動」は活発で､ほとんどの生徒が意欲的に取り組んでいる。しかし、普段の個々による挨拶は弱く、個人差が大きい。気持ちのよい挨拶の向上が必要であると考えている。また、地域での挨拶ももっと積極的に行えるように育てていきたい。<br>◆学校では「あいさつ運動」をより工夫し、引き続き推進していくとともに、教育活動全体において、挨拶の大切さや意義について伝えていく必要がある。生徒会活動を生かして、生徒自身が呼び掛けたり、高め合えたりできる場を作っていく。 | 教職員 | 12 | 92% | 7 | 15 | 2 | 0 | 0 |
| | | | | | | 保護者 | 12 | 89% | 30 | 66 | 12 | 0 | 1 |
| | | | | | | 地域住民 | 9 | 85% | 16 | 12 | 5 | 0 | 2 |
| | | | | | | 生　徒 | 12 | 92% | 103 | 36 | 8 | 4 | 1 |
| | 行事・諸活動の充実 | 感動のある学校行事や生徒の変容・向上を図る活動が行われている。<br>目標値：アンケート結果 80%以上肯定 | 学年末 | A | ◇９割以上の回答が肯定的に評価しているためAとした。今年度は､新型コロナウイルス感染症予防対策を第一に考えた上での行事開催だったため、回数や内容等様々な制限をかけた状態であった。しかし、その分精選され凝縮された行事が開催されたのではないかと考える。また、生徒は少ない行事だからこそ、集中して取り組め、充実感を感じることができたと思われる。<br>◆今後の状況によっては、さらに制限された開催になることも考えられるが、どのような形になっても生徒が主体的に考え、活動できるようサポートをしていかなければならない。 | 教職員 | 13 | 96% | 14 | 9 | 1 | 0 | 0 |
| | | | | | | 保護者 | 13 | 94% | 32 | 71 | 6 | 0 | 0 |
| | | | | | | 地域住民 | 10 | 100% | 7 | 22 | 0 | 0 | 6 |
| | | | | | | 生　徒 | 13 | 93% | 98 | 43 | 8 | 3 | 0 |
| | 地域との連携 | 情報発信や参観日、懇談会などを通して開かれた学校づくりを実践している。<br>目標値：アンケート結果 80%以上肯定 | 学年末 | A | ◇回答のほぼ９割以上が肯定的である。また、学校・学年等の各種通信が定期的に発行されており、ホームページの更新においてもほぼ毎日行われていることから、評定をＡとした。各種通信やホームページにより、学校行事はもちろん、普段の授業の様子等、様々な教育活動をその都度配信することで、幅広く情報発信をすることができた。この取組は今後も継続していく必要がある。<br>◆今年度はコロナ禍の影響もあり、各行事で人数制限等の様々な規制を行ったため、生徒の活動の様子を実際に見ていただく機会が少なかった。保護者はもちろんであるが、開かれた学校づくりを進めていくなかでは、安全・安心を考えた上で、地域の方にも見ていただける環境を整えていかなければならない。そして、保護者だけではなく、地域の願いも把握した上で、将来の地域を担う生徒の育成に努めていく。 | 教職員 | 14 | 96% | 13 | 10 | 1 | 0 | 0 |
| | | | | | | 保護者 | 14 | 91% | 29 | 70 | 10 | 0 | 0 |
| | | | | | | 地域住民 | 11 | 100% | 22 | 11 | 0 | 0 | 2 |
| | | | | | | 地域住民 | 12 | 100% | 7 | 20 | 0 | 0 | 8 |
| | | | | | | 生　徒 | 14 | 89% | 95 | 40 | 15 | 2 | 0 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| **学校運営協議会委員の所見** | ・教職員・生徒・保護者・地域とも高評価を得ているため、細かいところを修正しながらこのまま進めていけばよいと思う。<br>・挨拶はよくできていると感じる。中でも男子生徒の挨拶は大変すばらしい。<br>・「教員自身も積極的に挨拶すべき」という意見があり心配している。生徒に対して上から目線になっていないか。<br>・今年度はコロナ禍の影響で、多くの学校行事が例年通りは行えなかったため、学校の特色を出しにくかったのではないか。ただ、これを機会に、もう一度「城辺中学校の特色とは何か」を再考し、行事の内容や行事そのものの見直しをしてもいいのではないか。<br>・学校通信やホームページを皆が見るわけではないので、CATV等を利用して、情報を発信する方法もあるのではないか。<br>・コロナ禍で下を向きがちになってしまうが、明るく元気な学校づくりをこれからも続けてほしい。 | **学校の対応** | ・挨拶に関しては、やはり教職員が模範を示すべきである。ただ、挨拶に関する基本的な礼儀（※目上の方には先に挨拶など）については指導していく必要があると感じている。<br>・生徒会役員は毎週あいさつ運動を行っている。マンネリ化という声も聞こえてくるが、意識付けには継続することが一番であると考える。今後は挨拶の質（※語先後礼など）を高められるようにしていきたい。<br>・コロナ禍が逆にチャンスであると捉えたい。行事の精選は学校現場にとって急務であると考える。しっかりと生徒や保護者の意見を聞き入れながら、学校行事の見直し（※内容や時間など）を図っていきたい。<br>・学校の状況を知っていただく意味でも、情報発信は重要であると考える。ＣＡＴＶも情報発信の一つの手段として取り入れていきたい。<br>・ふるさと講演会ができたことをうれしく思っている。やはり地域の方から話を聞くことは、生徒にとってプラスになることが多い。今後も継続させたい。 |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 健康・安全教育の推進 | 健康教育の推進 | 食育や保健指導を通して、健康的な生活をしようとする生徒を育てている。<br><br>目標値：アンケート結果<br>80%以上肯定 | 学年末 | A | ◇教職員、保護者、地域、生徒ともに高い達成率である。食育は、栄養教諭の作成掲示した資料が随時更新され、生徒が興味を持って見ている。また、給食時に教室を巡回したり放送を行ったりと、指導方法を工夫し献立や食材の説明をすることで、栄養面への意識付けができている。２学期は給食委員会と保健委員会が合同で感染症予防に関する集会を開催し、生徒への感染回避行動の更なる啓発を行った。<br><br>◆給食時の放送文や掲示物を通して、継続した食育指導を行う。<br>◆継続した個人健康観察の実施と指導資料等を活用し、感染回避行動の習慣化を図る。 | 教職員 | 15 | 100% | 12 | 12 | 0 | 0 | 0 |
| | | | | | | 保護者 | 15 | 95% | 27 | 76 | 5 | 0 | 1 |
| | | | | | | 地域住民 | 13 | 100% | 5 | 23 | 0 | 0 | 7 |
| | | | | | | 生　徒 | 15 | 89% | 78 | 57 | 9 | 8 | 0 |
| | 防災教育の推進 | 防災教育を進め､安全･防災意識の高い生徒を育てている。<br><br>標値：アンケート結果<br>80%以上肯定 | 学年末 | A | ◇回答の９割以上が肯定的である｡今年度はコロナ禍の影響があり､全校が一斉に集まるような避難訓練はあまりできない現状があった。しかし、シェイクアウトえひめと連動したショート避難訓練等の実施や、学年別で行った起震車体験、砂防学習会等、昨年には実施していないことに取り組んだことが肯定意見につながっていると考える。<br><br>◆今年度は学校運営協議会と連携して行う予定だった、地域を巻き込んだ避難訓練が実施できなかった。コロナ禍ではあるものの、災害はいつ起こるかわからない。このような状況下における災害も想定しておく必要がある。今後は、様々な状況を考えた上で、学校独自の訓練の在り方はもちろん、地域と共にある訓練の在り方を模索し、関係機関と連動しながらより深まりのある防災教育を実施していく。<br>◆生徒・教職員ともに、災害に対して幅広く対応する能力が身に付いているかと問われると、まだ不十分ではないかと考える。今後は、災害時に各自が判断し、主体的に行動がとれるよう、より具体的な活動を実践していく必要がある。 | 教職員 | 16 | 100% | 7 | 17 | 0 | 0 | 0 |
| | | | | | | 保護者 | 16 | 94% | 30 | 72 | 6 | 0 | 1 |
| | | | | | | 地域住民 | 14 | 100% | 8 | 22 | 0 | 0 | 5 |
| | | | | | | 生　徒 | 16 | 94% | 82 | 60 | 5 | 4 | 1 |
| | 部活動の充実 | 部活動に進んで参加し、自主性・協調性・責任感･連帯感等の高い生徒を育てている。<br><br>目標値：アンケート結果<br>80%以上肯定 | 学年末 | A | ◇年度当初に部活動を行うことができない期間があり、総体やコンクール等が中止となった。その中での評価としては高いものを感じる。これは、生徒にとっても部活動が中学校生活において大きなウエイトを占めているのだと思われる。<br><br>◆保護者・生徒において、低い評価も見られた。また、生徒数減少となる中で、部活動の編成についても考えていかなくてはならない。生徒や保護者のニーズに配慮し、生徒が充実感を味わえる活動ができるよう、今後も部活動ガイドラインに沿った取組を続けていく。 | 教職員 | 17 | 100% | 10 | 14 | 0 | 0 | 0 |
| | | | | | | 保護者 | 17 | 87% | 25 | 69 | 12 | 2 | 1 |
| | | | | | | 地域住民 | 15 | 100% | 11 | 19 | 0 | 0 | 5 |
| | | | | | | 生　徒 | 17 | 91% | 96 | 41 | 9 | 4 | 2 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| **学校運営協議会委員の所見** | ・授業や行事ではコロナウイルス感染症予防対策がなされていると思うが、休み時間はどうだろうか。密接・密集が常習化してはいないか。一人でも罹患者がでれば、クラスターが発生する恐れがある。<br>・スマホの普及で生徒の体調に変化はないだろうか。（視力の低下や背骨の歪曲など）<br>・地域と連携した防災学習が行えなかったことは残念だが、コロナ禍が終息した際には取り組んでほしい。<br>・コロナ禍の中、感染症予防対策を実施しながらの授業や部活動は大変だったのではないか。ただ、今は予防を第一に考えなければならないことから、引き続き健康管理に気を付けていただきたい。<br>・部活動に文化部が一つしかないのは残念である。生徒の特性を考えた上で、あと一つは必要ではないか。また、今後、部活動の再編や外部コーチの導入といったことも行われると思うが、早めの情報発信を心掛けてほしい。<br>・健康な生活があってこそ部活動にも力が入る。一人一人の能力はもとより､協調性でチームは伸びる。仲間づくりに配慮してほしい。 | **学校の対応** | ・感染症予防対策と言いながらも、徹底できていない部分があったことを反省している。生徒も身近なところに感染者がいないため、危機感に欠ける面があった。感染症予防対策の必要性について継続して指導していく。<br>・スマホやゲームの影響で、生活リズムが崩れている生徒もいる。生徒、保護者への啓発活動に加え、学校医等とも相談して講演会を開くなど、違った形でアプローチをしていきたいと考えている。<br>・いつどのようなときに災害が起こるかは分からないため、防災教育については継続して進めていく。<br>・生徒数の減少から部活動の再編が急務であると考える。このままでは運営ができかねない状況にまできている。生徒の意見も聞き入れながら、早急に対応策を考えていく。<br>・昨今、部活動指導員の制度化についての審議が行われているが、今後の動向については、分かり次第情報発信をしていく。 |